

東大らしい非常にオーソドックスな漢文でしたが、きちんと読解できたでしょうか。

漢文の学習は、句形などの基本的な暗記に加えて、「典型的な主張・ストーリー」を類型として頭に入れておく必要があります。もし今回の文章が「全く分からなかった」「ぼんやりしか分からなかった」ようでしたら、儒家・法家・道家などの諸子百家の思想を確認し、それらに基づいた典型的な文章を読解する練習を重ねましょう。

また、今回の文章では細部に拘り過ぎると内容が取りづらく、全体を俯瞰的に見る視点が要求されていました。読解の際、近視眼的に読んでしまう癖のある人は、全体の主旨や構成に常に目を配ることを意識してください。

〈解答〉

- (一) 法令というものは、世を治めるための道具であって、人心の善悪を定める根源ではない。
- (二) 勇猛で厳格、冷酷な人物でなければ、どうして役人の仕事に堪えて心穏やかでいられたらうか。
- (三) 漢の法律が寛大であったこと。
- (四) 世を治めるには、厳格な法令よりも道德こそが肝要である。

〈解説〉

○全体の読解

まず、冒頭の孔子の言葉を正しく解釈できているかが重要。対句に注意して「政(法律)・刑」と「徳・礼」の対比を見抜き、儒家が法律や刑罰を嫌い、礼徳に基づく政治を志向するという背景を知っていれば、

- ・法律や刑罰 ↓ 悪い政治 (「免而無恥」|| 人々が法の適用や刑罰を免れようとして、悪事に恥を感じなくなる)
 - ・徳や礼 ↓ 良い政治 (「有恥且格」|| 人々が恥を知り、正しい行いをする)
- と理解できる。「免而無恥」と「有恥且格」などは、文脈や背景を考慮せずに理解しようとするとかかなり難しかったはずだ。

漢文では、古句の引用や譬え話、具体例などを用いて、同じ主張を何度も繰り返すパターンが多い。今回の文章では、冒頭の内容を正しく解釈できていれば、全体の読解に関して大きく間違えることはなかっただろう。

(一)「法令者、治之具而非制_レ治清濁之源_ト也」を、「清濁」が何を意味するか明らかにして、平易な現代語に訳せ。

「具」と「清濁」の解釈がポイントとなる。

「具」については、後半の「源」と対比になっていることに注意すれば、「本質ではない、単なる道具」と解釈できる。なお、模範解答の「世を治めるための道具」は「政治の道具」でも良いが、現代で「政治の道具」というと「政争の道具」のようにも解釈できるため、曖昧さを避けて「世を治める」としてある。

「清濁」については、漢文の典型的な用法として「官吏の清廉・腐敗」が思いつくはずだが、「民」について述べていた冒頭の孔子の言葉を考慮するなら、もっと一般的な「人心の善悪」と理解できる。なお、「治之具」との対比を意識して、「政治・統治の善悪」と解釈しても良い。

強者の戦略

(二)「非^三武健^二嚴酷^一、惡能勝^三其任^二而愉快乎^一」を、平易な現代語に訳せ。

(三)とも関連するが、まずは本文三行目「網」を「法律」の譬えと理解し、「網が密である」とは、「法律が厳格であった」ことだと理解できている必要がある。「天網恢々疎にして漏らさず」などの慣用句や「法網」などの熟語を知っていれば難しくはなかったはず。また、「昔」とは漠然とした過去ではなく、「漢」の前の時代、すなわち厳格な法で知られた「秦」であることに気がついていても良い。その上で本文冒頭の内容を踏まえれば、厳しい法律により世が乱れていたことが分かる。

また、傍線部直前の「吏治」が「役人による統治」と分かれば、続く傍線部の「其任」も「役人の仕事」を指すと理解でき、あとは傍線部を訳せば解答になる。「ずんば(否定+仮定条件)」、「悪んぞくんや(反語)」や「能(可能)」などの句形、「勝(たへて)」などは漢文の基本的な知識と言えるだろう。

(三)「網漏^三於吞舟之魚^二」はどのようなことをたとえているか。簡潔に説明せよ。

「吞舟之魚」は「舟を飲み込むほどの大魚」の意。傍線部は「網は舟を飲み込むほどの大魚を取り逃す」の意となり、「法の網が緩やかであった」ことが分かる。あとは法律が「昔(秦)」と対比された「漢の法律」である点、「漏らす・取り逃す」などの表現に引きずられずに「寛大・寛容・緩やか」などの肯定的表現で書くことを意識しよう。

直前の「破^レ觚而為^レ圓、斲^レ雕而為^レ朴」などの細部だけに拘ってしまおうと理解が難しかったが、本文全体の趣旨や、法律が厳格であった「昔(秦)」との対比など、本文を俯瞰的に捉える視点があれば解答は容易だっただろう。

(四)「在^レ彼不^レ在^レ此」には、筆者のどのような主張が込められているか。簡潔に説明せよ。

直前の「由^レ是觀^レ之」は文章の結論やまとめを提示する言い回しである。本文では、冒頭と同じ内容を繰り返していると理解してよい。傍線部は「(世を治める要点は)あれ(道徳)にあつて、これ(法律)にはないのだ」という意味だが、「彼・此」が何を指すかは全体の文脈の中でしか把握できないので注意する。

〈現代語訳〉

孔子が言うには、「法令によつて民を導き、刑罰によつて民を統制しようとすると、民は法令や刑罰の裏をかくぐるようになり、悪を恥じる心を持たなくなる。道徳によつて民を導き、礼儀によつて民を統制すれば、民は悪を恥じるようになり、正しい行いをするようになる」と。老子が言うには、「法令が明確になるほど、盗賊は増えるものだ」と。太史公が言うには、これらの言葉は本当であることだ。法令というものは、世を治めるための道具であつて、物事の善悪を定める根源ではない。昔(秦)の時代、天下の法網は厳格であつた。しかし、悪事や虚偽が芽生え、挙げ句の果てには、身分が上の者も下の者も互いに責任逃れをして、救いようがなくなつてしまつた。この時には、官吏による統治は沸騰した湯をかけて火を消すよう(に)、切迫した事態)であつた。勇猛で厳格、冷酷な人物でなければ、どうして役人の仕事に堪えて愉快でいられたらうか。道徳を語る人々は職務を疎かにした。漢が興り、四角いものを円くして、彫刻を削つて素朴なものとし、網は吞舟の魚を捕り漏らす(ように)、法律が寛大になり、華美な習俗は質実となつた)。そして官吏による統治は純良としていて人々を悪事に走らせず、人民はよく治まつた。こうしてみると、(世を治める要点は)あれ(道徳)にあつて、これ(法律)にはないのだ。

〈書き下し文〉

孔子曰く、「之を導くに 政を以てし、之を斉ふるに刑を以てすれば、民免れて恥無し。之を導くに徳を以てし、之を斉ふるに礼を以てすれば、恥有りて且つ格し」と。老子称く、「法令滋章かにして盗賊多く有り」と。太史公曰く、信なるかな是の言や。法令なる者は、治の具にして清濁を制治するの源に非ざるなり。昔天下の網嘗て密たり。然るに姦偽萌起して、其の極るや、上下相ひ遁れ、振はざるに至る。是の時に当り、吏治は火を救ふに揚ぐるがごとし。武健嚴酷に非ざれば、悪んぞ能く其の任に勝へて愉快ならんや。道徳を言ふ者は其の職に溺る。漢興り、觚を破りて圓と為し、雕を斲りて朴と為し、網は吞舟の魚を漏らす。而して吏治は烝烝として姦に至らず、黎民艾安す。是に由りて之を觀れば、彼に在りて此に在らず。

強者の戦略